



市長からの手紙

86 食べながら観光

昨年、川越市を訪れた観光客は730万人余り（うち、外国人観光客は約28万人）と大幅に伸びています。昨年の川越まつりは2日間とも好天に恵まれたのをはじめ、小江戸川越春まつり、川越百万灯夏まつり等のお祭りや各種イベントも比較的良い天気だったこと、テレビなどのメディアが頻繁に川越を取り上げてくれたこと等のおかげです。

多くの観光客が来てくれるということは、まさに活気がみなぎり、経済的にも大きなプラス効果で大変うれしいことなのですが、人数が増えるに従って、そのマイナス面、弊害も次第に強く意識されつつあります。

今年の川越市議会定例会でも、「ごみ問題などのオーバーツーリズム」や「観光客と市民の共存」という、増え続ける観光客のもたらすマイナス面についての一般質問がありました。

また、今年3月1日のある新聞記事には、「『食べながら観光』迷惑ですか?」という見出しの

コラムがあり、ソフトクリームやコロック等を食べながら散策することを「迷惑行為」として条例で規制しようとしている鎌倉市の例を取り上げていました（この条例は、今年の鎌倉市議会定例会で賛成多数で成立しました）。

川越市内でも、焼き鳥・コロック・いもチップス・ソフトクリーム等、歩きながら食べることができる食品を売る店には、いつも長い行列ができ、大変人気を集めています。そして、食べながら蔵造りの町並みやその周辺を散策している観光客が大変目立つようになりました。

食べながら観光の弊害は、①ゴミを道端に捨てる、②地面に落ちた食品で石畳が黒ずむ、③混雑した中では他の観光客にぶつかり衣服を汚す、などがあります。

今回成立した鎌倉市の条例では、③を「迷惑行為」と捉えて、「市民および滞在者（観光客等のこと）は公共の場所で『迷惑行為』を行わないように努める義務がある」としています。川越市の場合、「食べながら観光」は①と②が弊害としてクローズアップされています。

「食べながら観光」については、これを禁止する所も、また逆に推進する商店街もある現状のようですが、川越市も「食べながら観光」に今後どう対応するのかを考えなければならない時期に来ています。

川越市長 川合喜明

「手話」で話そう！

障害者福祉課 ☎224-5785

Fax 225-3033

手話は、単なる身ぶりやジェスチャーではなく、ろう者がコミュニケーションを取るために欠かせない「言語」です。平成30年6月29日に施行された「川越市手話言語条例」では、手話は言語であるという認識に基づき、ろう者とうる者以外の方が共に暮らしやすい社会の実現を目指しています。

このコラムでは、手話について知り、正しく理解してもらうため、基本的な手話の表現方法などと併せて手話を紹介していきます。

*川越市手話言語条例は、市ホームページで確認できます。

*平成30年10月10日発行の広報川越No.1424・5ページにも手話を掲載しています。

今日から実践！

ミニ手話講座

手話
両手の人さし指を横へ伸ばし、手の甲を前方に向けて上下に置き、交互に円を描くように動かす



はじめまじっ

①左手の甲に右手のひらを置き、右手を引き上げながら人さし指以外をすぼめ、親指を中指の横腹に付ける



②人さし指を上へ伸ばした両手を近づける

